

和漢古書・特殊言語資料入力における スキルの確保

平成20年度 NACSIS-CAT/ILL ワークショップ
2班

手代絹子 一戸佳織 高城雅恵

これからの目録業務

- ・発生源入力
- ・大規模遡及入力終了
- ・委託化



・流通図書→現場での目録業務減少



・和漢古書、特殊言語資料などの非流通図書
→現場に残る

現状

所蔵館が偏在
未入力の比率が高い
寄贈され、目録作業が発生することもある
スキルの確保が必要になる

[背景]

- ・コーティングマニュアル作成や入力開始が遅れた
- ・文字フォントの対応が遅れた
- ・言語の難易度が高く、レア
- ・内容把握の難易度が高く、レア

何が課題となるか

- ワークショップ受講者にアンケート

- 1.誰が目録をしているか

常勤、非常勤

- 2.どのようにしてスキルを身につけたか

研修、現場での独習

個人のスキルに頼っている

→その人物がいなくなったら？

解決策として

- ・外部にスキルを求める

1. 外注

2. 専門館を作り集中整理

- ・組織内にスキルを求める

1. 人材確保

2. スキルの共有

外部にスキルを求める

	外注	専門館を作り 集中整理
長所	組織に限定されない 人材の確保が可能	各館で少量しか受け入れ ない特殊資料も整理出来 る
短所 問題点	外注可能な冊数を準備 予算の確保(内部資金、 外部資金の活用) 仕様書の作成 品質管理(点検評価)	依頼館→専門館への対価 (予算・インセンティブ)が 必要 専門館→人材養成、確保 学術情報機関→依頼館・ 専門館の取りまとめ、体制 づくり

専門館構想

例：過去10年のヒンディー語作成書誌数23254件、書誌作成館数129館
(国立情報学研究所学術コンテンツ課提供資料より)

件数	参加組織 レコードID	参加組織略称	作成件数/ 全書誌数
9963	FA002928	阪大箕	42.84%
8311	FA001878	東外大	35.74%
1192	FA011758	東大文	5.13%
754	FA002633	京大文	3.24%
405	FA011962	東大東文	1.74%

作成館が
偏在

他、～100件 7館、～10件 24館、～1件 93館

組織内にスキルを求める

1. 人材確保

- 求める人材
 - 語学その他の専門知識がある
 - 自己研鑽が出来る
 - 現場経験・協調性がある
- 予算の確保
 - 業務分析
 - 外部資金調達申請書の作成
 - 予算執行報告
 - 成果報告

人材確保の一例

購入教員が翻字データをつける
校閲をする



合意・定型化



予算執行報告、成果報告をする

組織内にスキルを求める

2. スキルの共有：組織レベル、地域レベル、国レベル

- 研修

 - 企画

 - 予算の確保

 - 場所、設備の確保

 - 講師養成(人材確保)

 - 受講後のフォローアップ



- メーリングリスト、マニュアル、目録コンテンツポータル
の整備

まとめ スキル確保に向けて

- 各館で実現可能な方法を模索し、企画立案する
- 実行後は、業務分析、評価、成果報告を充分に行う

参考文献

- 「次世代目録所在情報サービスの在り方について(中間報告)」国立情報学研究所学術コンテンツ運営・連携本部図書館連携作業部会(次世代目録ワーキンググループ),2008年3月
- 「目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討ワーキンググループ最終報告書」目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討ワーキンググループ,2007年3月
- 「北部地区研究会目録講習会開催における事例発表」矢崎美香(九州共立大学附属図書館),2008年12月
- 「受託の視点からみた目録業務マネジメント」長澤正樹(株式会社図書館流通センター学術情報ソリューション),2008年12月